

令和4年



月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

■塗りつぶしの日は休館です。

『公共図書館を育てる』

永田治樹/青弓社/016.2 ナカ

デジタル時代の公共図書館のあり方とは。海外の図書館経営の手法を紹介し、公共図書館とコミュニティの関わりをイギリスの事例をもとに検討。家庭と職場以外の心地よい空間として世界的に有名な北欧の図書館も取り上げる。

図書館・移動図書館・電子図書館がご利用いただけます。今年も図書館をよろしくお願いたします。



『卒論・修論研究の攻略本』

石原尚/森北出版/002.7 イシ

“戦略思考に基づく問題解決能力”で卒論・修論研究を攻略！研究テーマの設計法から、結論の導き出し方、論文・スライドの作成手順までわかりやすく解説する。各種ツールがダウンロードできるダウンロードサービス付き。

『全然アート』

松岡正剛/KADOKAWA/019.9 マツ 文庫

アルタミラの洞窟画、ルネサンスの遠近法、印象派の革命、そしてコンセプトアートへ。絵画も日本画も現代アートも、松岡正剛が内外のアートを巡り惚れこんだ作品について語る。図版も多数収録。

『日本像の起源』

伊藤聡/KADOKAWA/121 伊

日本とは何か。日本の独自性とは何なのか。吉備真備の入唐説話から、空海いろは歌作者説、やまとだましと肉食忌避まで、古代・中世を中心に、＜日本的なるもの＞をめぐる思惟と言説の起源を立体的に描き出す。

『孤独の飼い方』

下重暁子/青春出版社/159.6 シモ

孤独を怖がってはいけない。孤独の時間こそ、ほんとうの自分を知るための時間である。個性の個性は、孤独の孤を知ることからできてくる。孤独を通して、自分らしく生きる方法を説く。

『北条氏の時代』

本郷和人/文藝春秋/210.4 ホン

鎌倉幕府 150 年の歴史をつくった謎の一族、北条氏。名もなき一介の武士の一族が、なぜ政権を奪取し日本を動かし続け、最後は滅亡したのか。時政、義時、泰時といった歴代の北条家当主のリーダーシップを読み解く。

『泣ける日本史』

真山知幸/文響社/281 マヤ

戦争、身分差、島流し、人質、側室、首さらし…。現代以上に理不尽すぎる世の中で、格闘し続けた先人たちの生き様とは。悲劇的な生涯を送った 19 人の歴史人物を通して、日本史を違う角度から捉え直す。

『平等ってなんだろう？』

齋藤純一/平凡社/316.1 サイ 青少年

なぜ「平等であること」が大切なのか？不平等な社会は、どうして問題なのか？日常のモヤモヤした疑問、教育や医療の不平等、肌の色やジェンダーをめぐる差別などを通じて、社会における「平等」の大切さを考える。

『「ひきこもり」から考える』

石川良子/筑摩書房/367.6 イシ

自分とは異なる人生を歩み、異なる価値観を培ってきた相手と、どのように向き合っていけばよいのか。「ひきこもり」支援のあり方について、＜聴く＞ということに焦点をあてて考察する。『Web ちくま』連載を加筆し書籍化。

『クレパスのじかん』

西尾正寛/サクラクレパス出版部/376.1 ニシ

クレパス・クレヨンの基本的理解・技法から、子供の成長に応じた資質・能力を育む実践までを解説。年齢、学年別に具体的な展開を示しながら、要所ごとに活動のポイントを紹介する。

『暗記しないで化学入門』

平山令明/講談社/431.1 ヒラ

暗記をしなくても、電子の動きを理解すれば、化学の原理が見えてくる！さまざまな化学反応、あらゆる化学物質の性質も、電子に注目すれば、するすると紐解ける！化学の「理屈と面白さ」がわかる、絶好の入門書。

『はぐれイワシの打ち明け話』

ビル・フランソワ/光文社/481.7 フラ

海の中ならどこでもクジラの歌声が聞こえる、サケは海の中で故郷のにおいを嗅ぎ分ける、ニシンのおならが冷戦の緊張を高める…。自然科学的な話題から歴史上のエピソードまで、海の魅力を余すところなく伝える海洋エッセイ。

『コロナとWHO』

笹沢教一/集英社/498.6 ササ

WHOの内情に通じる著者が、コロナ発生時の初動について詳細に検討。感染拡大の節目における判断の経緯、国際的なワクチン供給体制の確立の仕方など、WHOの施策を緻密に検証し、国際保健体制の現状についても解説する。

『視覚化する味覚』

久野愛/岩波書店/588 ヒサ

なぜ人は、ある特定の色をその食べ物の「自然な(あるべき)」色だと思えるのか。食べ物の色に焦点を当て、資本主義の発展とともに色の持つ意味や価値がどのように変化してきたのかを、感覚史研究の実践によりひもとく。

『しゃばけごはん』

畠中恵/新潮社/596.2 ハタ 文庫

若だんなも妖も大好きな卵焼き、仁吉や佐助が給仕してくれる小豆粥、天狗と食べた夜鷹蕎麦、栄吉の辛あられ…。「しゃばけ」シリーズに登場する美味なる江戸料理、全 33 品をお手軽なレシピで再現する。

『四書体の歌』

張海/芸術新聞社/728.2 チョ

現代中国書壇の巨匠・張海による、書学史、書道史大観。歴代の法書を、篆・隸・行草・楷の四体に分け、書体ごとにその歴史を通覧して評を加える。視覚でも表現傾向と特徴を確かめられるよう、作品の図版も示す。

『日本語の大疑問』

国立国語研究所/幻冬舎/810.4 コク

「シミュレーション」を「シュミレーション」とつい発音してしまうのはなぜ？「確認させていただいてもよろしいですか」は乱れた日本語？ことばのスペシャリストが集う国立国語研究所が、素朴だが奥深い疑問に答える。

『現代文解釈の基礎』

遠藤嘉基/筑摩書房/817.5 エン 文庫

半世紀近くにわたって読み継がれた現代文教本。数々の小説や評論を題材に、重要な箇所をどのように見分けるかを、実演を織り交ぜながら徹底的に解説する。高校教科書の定番教材も多数収録。

『円』

劉慈欣/早川書房/923 リウ

10 万桁まで円周率を求めよという秦の始皇帝の命により、学者の荆軻は始皇帝の 300 万の軍隊を用いた驚異の人間計算機を編みだすが…。表題作「円」をはじめ、デビュー作「鯨歌」など、全 13 篇を収録した中国 SF 短篇集。

『赤と青とエスキース』

青山美智子/PHP 研究所/Fアオ

メルボルンの若手画家が描いた一枚の「エスキース(絵画)」。日本へ渡って 30 数年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいき…。仕掛けに満ちた書き下ろし連作短篇集。

『親愛なるあなたへ』

カンザキイオリ/河出書房新社/Fカン

小説家を目指す春樹。ミュージシャンを夢見る雪。そして、二人を見守る人たち。それぞれの哀しみを背負いながら、高校三年間、寄り添うように生きていく。ところが突如、平穏な日々が悲劇が訪れ…。青春サスペンス。

『女性失格』

小手鞠いり/文藝春秋/Fコト

人はどうやって女になっていくのか？女という性をやめられず、女という性から逃れられない「生」の先には何が見えるのか？太宰治の「人間失格」を下敷きに、「女性が女性であることで覗きこむ深淵」を照らし出す。

『約束』

葉室麟/文藝春秋/Fハム 文庫

浩太、舜、冬美、美樹の高校生 4 人は、交差点で雷に打たれ、目覚めると、明治維新直後の時代に転生していた。西郷、大久保ら、近代史の立役者たちの側で、激しい時代のうねりに巻き込まれ…。没後に発見された幻のデビュー作。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

◆◆ホームページアドレス◆◆ <https://www.library.otsu.shiga.jp>

行事予定は裏面へ